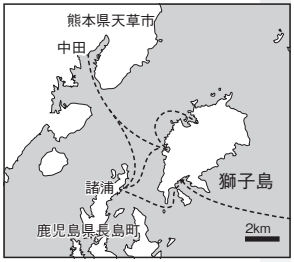
●定住促進●

鹿児島県獅子島

住宅リフォームや先進地視察、特産品販売などの試み

鹿児島県長島町企画財政課



◆クビナガリュウ化石の発見で話題となった島

獅子島は、鹿児島県の北西部にある長島の北東約四キロメートルに位置し、七郎山（三九三メートル）を最高峰とする丘陵地帯が大部分を占めている。島の北部一帯は雲仙天草国立公園の一角にあたり、豊かな自然と人との共生がみられる。産業は漁業（ブリ養殖）や農業（柑橘栽培）が盛んで、平成二〇年にはクビナガリュウの化石が発見されて話題を呼んだ人口約七七〇人の島である。

平成二年には約一二〇〇人を数えた住民は年々減少し、高齢化率は四一パーセント、人口減少とともに高齢者が多い島となっている。人口の減少を食い止めるために、島全体の観光振興をはじめ一次産業の振興に力を入れ、さまざまな施策を実施しているが、人口減少に歯止めがかからない状況にある。観光振興において、島外からの観光客を呼び込んで交流人口の増加を図り、定住促進につなげるため新たな施策が必要と考える。また、農業漁業の振興策についても、離島の抱える問題点だけでなく、離島ゆえの利点を生かした施策が必要と思われる。

◆定住住宅の確保や他島の視察、遊漁船による漁業体験

観光と農漁業の振興によって定住促進を図り、人口の減少を抑えるための新たな取り組みが重要であると考え、昨年から「離島活性化交付金」を活用した事業を実施している。

獅子島の人口増加を目的に、U・Iターン者向けの住宅を確保するため、「獅子島定住促進事業」として町の既存

住宅をリフォーム。キッチン・洗面所・風呂・トイレ・畳などの内装を改修することで、都市部からの入居者を受け入れる環境の整備を行っている。年間一戸の住宅を改修、三年間で三戸を目標とし、U・Iターン者を受け入れて人口の増加を図りたい。現在は、平成二五年度に一戸の改修が終わり、入居者を募集しているところである。

また、島の豊かな自然を生かした新たな事業の展開などによる人口増加や定住促進を目的に、「観光・交流拡大の調査研究事業」として、他の離島において実施されている施策や、その地域で活動されている団体などからも多くの意見や現状を見聞きすることにより、獅子島に即した観光・交流事業の企画づくりもあわせて実施した。

平成二五年度には、獅子島の住民一一名で、広島県三原市佐木島への研修視察を実施、住民が主体となったイベントの開催や学校跡地の活用状況、ボランティアガイドや特産品開発などについて研修と交流を行った。

研修視察に参加した住民から、「島を訪れた観光客などから、島の特産品販売所はないかとの問い合わせが多い」

八代海に位置する獅子島の全景。

都市部からの入居者を受け入れるため、既存住宅のリフォームを実施。

特産品の試験販売を実施するために臨時開設した「獅子島屋」。

との意見があり、佐木島での研修を参考に、試験的に特産品販売所「獅子島屋」を二日間にわたって臨時開設し、販売試験を実施した。観光客だけでなく住民にも評判が良かったが、獅子島の特産品については、もう少し品数を増やす必要があると思われる。

この試験販売をふまえ、これまで島になかった特産品販売所および観光案内所の建設を計画している。

さらに観光交流事業として、住民が主体となった「ブルーツーリズム事業」により、漁民の方が遊漁船の資格を取得。これにより、個人向けツアーを企画、遊漁船を利用した「ごち網漁業体験」「たこつぼ漁体験」「養殖いけす餌やり体験」を試験的に実施した。参加者の評判も良いため、漁業者の新たな事業として平成二六年度から正式に実施することとなった。

環境や条件の違う離島で研修と視察を実施することは、自分たちの住んでいる島を見直し、島に適した事業や新たな発見を通してこれまでと違った活性化策を考える機会にもなり、住民の意識改革にもつながる。今後は研修を重ねながら、現在実施している事業を生かし、観光・交流拡大、産業の振興により定住促進につなげていく必要がある。

住民主体の「ブルーツーリズム事業」による、養殖いけすでの餌やり体験。

遊漁船を利用した「ごち網漁業体験」や「たこつぼ漁体験」の試みも。

◆市町村財政負担の軽減を

「離島活性化交付金」は、離島が抱えるさまざまな問題などを少しでも改善するために必要な制度だが、各市町村が事業を実施する場合、市町村の負担が大きく、財政的に実施できない場合も想定される。今後、市町村の負担を少しでも軽減できれば、さらに事業を実施する市町村が増え、離島の活性化につながると思う。■